

おとずれ

(発行者) 富士吉田カトリック教会

(住所) 〒403-0005

山梨県富士吉田市上吉田3-5-7

(TEL) 0555-22-3199

(FAX) 0555-25-7002

2024年10月第506号 ホームページ <http://www.fgo.jp/~catholic/index.html>

テレーズふたたび

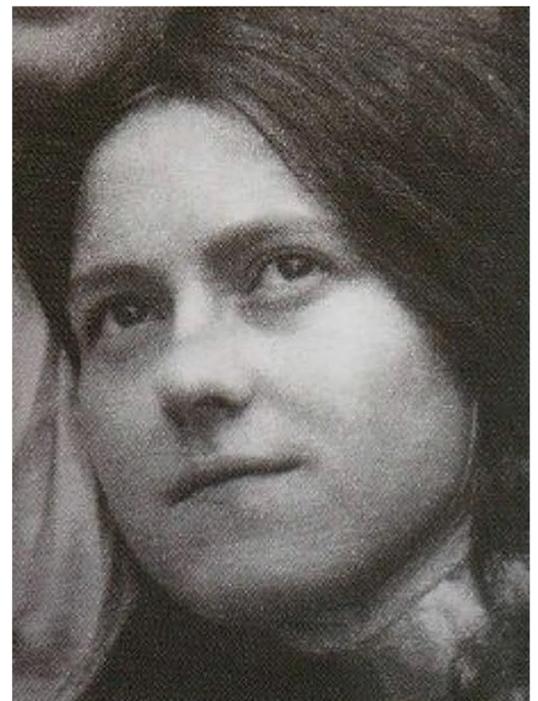
主任司祭 千葉俊一

リジューのテレーズ、小さき花のテレジアは富士吉田教会の保護の聖人です。10月1日がその記念日です。聖テレーズ生誕150周年を記念して教皇フランシスコが昨年発表された使徒的勧告『信頼の道』を皆さんもお読みになったかと思います。神学生時代にテレーズの伝記を読んで浅からぬ感銘を受けたわたしにとって、教皇様のこのメッセージはテレーズに再会する恵みを与えるものとなりました。

「わたしたちを愛である神へと導くのは信頼、ただ信頼だけです」。テレーズ自身のことばを冒頭に掲げて、教皇様はテレーズの信仰の核心を熱く語ります。愛である神を幼子のように信頼し、自らをそのいつくしみにゆだねること。こうした信仰は21世紀の教会の中に生きるわたしたちにとって、特に目新しいものではありません。しかし、テレーズの生きた19世紀後半においてはとてつもなく斬新な信仰だったのです。テレーズの時代では、父なる神のイメージは厳しく人間を裁く神であり、人間は懸命に善行を積んでその実績によって天国に入れるよう努力する、という信仰が主流だったのです。「わたしは自分の功德を少しも当てにしていません。何も無いのですから…わたしはただ、徳と聖そのものでいらっしゃるかたに期待しています」。死後出版された自叙伝に表されたこうしたテレーズの信仰は、カトリック教会にいわば内的革命をもたらします。その結果、テレーズ自らが「小さな道」と名付けた生き方は、わたしたちにとって親しみあるもの、目指すべきものとなりました。

今回再会したテレーズがわたしに与えた一番の「衝撃」は、次の彼女の祈りの一節でした：「主の御目から見れば、わたしたちのすべての正義もなお汚れたものです！」。テレーズは信仰のわざについて言っているのですが、各人(国)が各人(国)の「正義」を掲げて殺戮を継続している地球社会の現実には当てはめることも、テレーズの思いを裏切るものではないとわたしは思います。

自分の死後に「バラの雨を降らせましょう」という約束通り、テレーズはわたしたちのためのとりなしを今なお続けてくれています。信頼と希望をもつことが難しいと感じられる今だからこそ、テレーズの示した信仰の道を歩み続けることができるよう主なる神に願いましょう。



敬老のお祝い 2024年9月15日



本年は該当者 39 名(信徒 27 名、シスター方 12 名)で、ミサの中での祝福、並びに茶話会を開催いたしました。ミサ参加者 17 名(+他教会より 1 名)、茶話会に参加して下さった方々 13 名。多くの方々の参加をいただき、ありがとうございました。

残念なことに今まで「敬老の日には必ず行きたい」とおっしゃっていた信徒の方のお顔が少しずつ減っていくのは寂しい限りですが、その方々の近況も含め、皆さまと情報共有できたことは良かったかと・・・

懐かしい「昭和の歌の大合唱!」と、最後は「シニアサンバ」を披露して、これからも様々な困難を笑いとばしながら、お元気に共に歩んでいただこうと祈念し、会を終了いたしました。お手伝いの方々も大変ありがとうございました。



(行事企画チーム:江守香代子)

教会日誌(2024 年 8 月 16 日~9 月 15 日)

【8 月】

- 16日(金) 70 周年誌編集委員会(第 8 回)
- 17日(土) 甲府&富士吉田 日曜学校交流イベント@甲府カトリック教会/カレー作り体験&花火
- 22日(木) 聖堂オルガン前の扉下の床下ネダ交換工事、点検口を開ける
- 25日(日) 行事企画チーム敬老会打合せ
- 30日(金) ルカ和田美典さん通夜式 於・シティホール富士吉田
- 31日(土) ルカ和田美典さん葬儀ミサ 於・シティホール富士吉田
おとずれ 505 号印刷・発送作業

【9 月】

- 1日(日) 教会委員会 おとずれ第 505 号発行
- 6日(金) 70 周年誌編集委員会(第9回)
- 7日(土) 典礼奉仕者養成コース(第3回)@大船教会(参加:曾根、小林)
- 8日(日) 信徒の集い 共同代表打合せ(感謝と喜びの集いについて)
- 12日(木) 70 周年誌編集委員会(第 10 回)
- 15日(日) 敬老のお祝い ミサ参加者 17 名、茶話会参加者 13 名
(該当者 信徒 27 名、シスター12 名)
営繕グループに長澤泰さん参加 典礼委員会(葬儀のしおり検討他)

9月教会委員会議事録(9月1日実施)

出席者:千葉神父・新井・江守・大野・角(代 福永)・曾根・和田(あいうえお順)

1、教会墓地の今後について

※墓地アンケート結果はその回収率が約35%であった。この回収率の低さでは、アンケート回答に示された選択の多寡を根拠にして墓地の今後を決定することはできない。しかしながら、入墓を希望する信徒は確かに存在し、それを無視することはできない。したがって、教会委員会としては墓地を存続させる方向で検討していく(墓地の運営が不可能になる状況も想定に入れて)。そのはじめとして、従来の墓地管理規定を見直し改訂し、それを信徒たちに提示し、入墓希望者の有無を明確にする。

2、行事企画チーム

1)9月15日敬老のお祝いの件について

※対象者は信者さん27名、シスター9名。招待状を出し返答待ち。まだコロナの影響もあるため手作りのものではなく、発注したものでお祝いする。

2)10月27日ボルシチ教室の開催について

※ウクライナ出身のソフィアさんを招いて料理教室を開催する。材料費は教会から出し、謝礼は参加費から出す。日曜学校も参加を検討。人数によっては場所を検討。

3)11月24日感謝と喜びの集いについて

※従来の主旨を変えて、この集いを①教会共同体の年一度のお祭り(信徒たちの交わりを深める場)②外部の人たちと交わる宣教の場、にしてはどうか。そして②の具体的な形として、福祉作業所などに店出してもらうのはどうか。→新しいやり方を今回実施するには準備の時間がないのではないか。この件は再度千葉神父と共同代表で話し合う。

3、営繕委員会

※聖堂の床下基礎部分の腐食について、通気口から水が入り、木が腐食している。応急処置として乾いた空気で乾燥させることで延命措置できるが、あくまで応急処置であり、来年の予算締め切りまでに営繕委員会で話し合い、優先順位を決めて進めていく(大規模修繕の場合、教区建設委員会との協議・承認が必要な場合あり)

4、聖歌隊

※クリスマスミサ後聖歌隊が「O Holy Night」を合唱し、そのあと信者の皆さんで「聞かせてください」を歌う。それ以外にも歌いたい曲が出てきたので、次の聖歌隊の集まりの際決めていく。待降節になったら聖体拝領のあと、聖歌隊が歌を歌う。クリスマスの歌は10月から練習していく。一緒に歌ってくださる方を募集する。

5、70周年記念誌の件

※年表は完成した。あとは写真が足りないので、出せる方はだしてほしい。

6、ホームページ、集会室モニターの件

※おとずれアップロードは継続している。リモートミサのための機材をいろいろ試案中。ホームページの内容については引き続き検討中

7、日曜学校

※10月から2学期がスタートする。ロザリオの祈りは再度リーダーで話し合う。

※11月23日(土)ザビエル祭に参加する(現地集合、現地解散)。

8、リモートミサにつて

※来客者のためにいつもリモートミサに与っている方も聖堂でミサに与っていただけるよう、来客者の席を聖堂の一番後ろの席を空けておき、信者さんは来た順に前から座っていただけたらどうか。

ソフィヤさんをつくるボルシチ教室

「ボルシチ」という料理をご存知ですか？

ロシア料理だと思っている方が多いかも知れませんが、ボルシチはウクライナ発祥といわれ、東欧圏で広く親しまれている酸味のあるスープ料理です。

2022年2月、ロシア軍のキーウ侵攻に始まった戦争は、2年半がたった現在でも終息の兆しが見えません。平和を実現するには、異なる文化や価値感、背景をもつ人々が互いに理解し合い、違いを尊重することが大切です。

このたび、富士吉田在住のウクライナ人、ソフィヤ・ゾルスカさんを講師にお迎えし、下記のとおりボルシチ教室を開催することになりました。「食は文化なり」と言われます。肥沃な黒土が広がり、世界的な穀倉地帯として知られたウクライナで育まれた郷土食 ボルシチを、ソフィヤさんに教えてもらいながら一緒に作り、平和を祈りながら味わってみませんか。多くの皆様のご参加をお待ちしております。



世界三大スープの一つ ボルシチ

募集要項

開催日時： 10月27日（日）11：00am~

場 所： 富士吉田教会信徒館集会室を予定

参加費： 大人500円、子ども100円（当日、受付でお渡しください）

申し込み： 聖堂後ろの参加申し込み一覧表に、10月13日までに記入して下さい。

講 師： ソフィヤ・ゾルスカ(Sofia Zorska)さん（ウクライナ共和国ザポリージャ出身）
ウクライナからの避難民として、2023年12月より富士吉田に在住。日本のアニメーション業界で働くことを目標に、現在は富士河口湖町内の日本語学校で日本語を学んでいます。

ボルシチとは？

ウクライナ発祥の伝統的な郷土料理で、世界三大スープの一つに数えられるボルシチは、目にも鮮やかな深紅色をした煮込みスープです。この独特の赤い色は、ビーツに由来します。ビーツは砂糖の原料になるサトウダイコン（テンサイ）の仲間で、抗酸化作用、血行促進作用があり、日本でも近年スーパーフードとしてたいへん注目されている食材です。ウクライナでは、ジャガイモと同様に日常的に食べられているそうです。

ボルシチには地域、家庭ごとに、さまざまなレシピがあり、この教室では現在はポーランドで生活されているソフィヤさんのお母様のレシピで作ります。



ビーツ

こよみ

10月

日付	教会暦	行事内容等	日曜学校	聖堂清掃/備考
10/5(土)	—	教会委員会	—	—
10/6(日)	年間第 27 主日	山梨地区宣教司牧委員会 役員会	2学期 開始	吉田・河口湖
10/13(日)	年間第 28 主日	信徒の集い	○	信徒の集い 参加者
10/20(日)	年間第 29 主日	山梨地区宣教司牧委員会@富士吉田 世界宣教の日(献金)	○	吉田・河口湖 以外
10/27(日)	年間第 30 主日	ソフィヤさんと作るボルシチ教室	○	聖歌隊

御ミサは毎週日曜 9:30 開始です。変更ある場合のみ表に記載します。

今回の水害被害など、1月の地震以来度重なる災害を受けている能登半島。「能登半島災害義援金」募金箱を10月27日まで主日のミサの折に聖堂に置き、カリタスジャパン宛て送金いたします。ご協力よろしくお願ひいたします。(愛を証しする力を育てる共同体チーム和田)

イタリア語教室(月曜10時):10月7日、21日、28日

11月以降の主な予定

- ・11/23 日曜学校遠足(ザビエル祭参加/日本神学校)
- ・11/24 感謝と喜びの集い
- ・12/15 黙想会 武井アントニオ神父(サレジオ会・ベトナム出身)

10月のミサ奉仕

日	先唱	第1朗読	第2朗読	香部屋
6	曾根 美香	大野 隆	ヴ ティ ホア	角 幸子
13	大野 隆	吉村 希望	山田 恵子	中村 すみ子
20	江守香代子	佐々木成子	佐々木綾子	小林恵美子
27	東海林義夫	葉山 恵	グエン ティ カ	曾根 美香

墓地アンケート回答の内訳

配布数	112
回答数	40 (内 1 件は書状で「教会共同体の判断に ゆだねる」旨を通知)
回答率	約 35%
設問 1 の回答	・ 現状のまま維持する 5 ・ 全て手放す 9 ・ 運営の仕方を変えて維持する 24 (回答を選択できない 1)
設問 2 の回答	・ 共同墓地のみ 15 ・ 合葬墓地のみ 9
設問 3 の回答	・ はい 8 ・ いいえ 3 ・ わからない 10 (自分は入墓しないが友人等に勧める 3)

墓地アンケートのご意見

今の信者の年を考えると、今後入りたい方々が、出てくると思います。その時に新しく作る事はむずかしいと思うので、維持する必要があると

10年間合葬墓地を維持し、10年後の霊園管理運営者状況をみて、残した合葬墓地の今後を考える。

撤去し更地にする費用等も年間管理料の数
年分になることも考慮すれば、運営形態を変えて広く入墓を募るのも一つの選択肢と考える。信徒以外の方も共同墓地に入れるようになれば、入れたい家庭も増える可能性を感じる。

*自家墓地あるものの、姑を見送らないと今後の展望、開けず申し訳ありません。

墓地をなくす場合の多額の撤去費用を払うのと、維持していくのは、どちらがいいのか？

難しい問題かと思いますが何卒宜しくお願い致します。

現在の所属信徒で教会墓地に入りたいと思っている方がいないなら、すべて手放す

このアンケートにたどり着くまで、様々な手間と話し合いがあったこととお察しします。まずは携われた方々に感謝申し上げます。「すべて手放す」に賛成した理由を申し上げます。前の所属教会にも墓地がありました。そこは土地を購入して墓地にしたのです。教会を作られた神父様、区画を購入した方、身寄りがなく共同墓地に入られた方が眠っておられます。やはり道が細く、駐車場も停めずらいため空き地の方が広く毎年の草刈りだけでも大変。区画を購入したものの毎年の管理料を払って頂けない(連絡が取れなくなった)方もおり、教会の負担になっていました。どなたもいないうちに手放してしまった方が時代の流れ(墓を守るという概念の喪失)を考えると懸命なのではないかと考えます。

教会墓地を残してくださったミラノ会の神父様方に感謝と御礼をまず申し上げます。その上で、激動の世の中、考え方の多様化、スピードに対応するのが大変でこれだという考えがまとまりません。只直ぐすべき点としていくつか思いつくことを申し述べさせていただきます。

- ① 管理運営者への不安恒久的に墓苑の維持可教会墓能か(宗教法人への中国資本の参入もある)
- ② 富士吉田教会の存続・維持、教会員の減少。合葬墓地も教会墓地も毎年の管理費の徴収が難しくなる。